



第41号

編集
発行野田市青少年補導員
連絡協議会

事務局 野田市青少年センター

電話 04-7125-2639



オープンしたのだしこども館 supported by kikkoman

(写真・本文とも健康子ども部 児童家庭課提供)

新たな遊びと子育ての場を願って

野田市初の大型児童センターとして、令和4年10月1日にキックコーマン株式会社をネーミングライツパートナーとする「のだしこども館 supported by kikkoman」が清水公園に近い野田市清水1122番地の1にオープンいたしました。

同館は、さまざまな子どもたちが集い、子どもの成長に必要な遊びを通して学べる場として、また、保護者同士が安心して気軽に交流や相談ができる場として、さらには、子どもたちの体験活動を市民が支え、多世代の交流が図れる場として、子育て支援や地域交流の拠点となる楽しく遊びながら学べる施設です。

敷地の面積は、約9000㎡で、ターザンロープや滑り台、ブランコ等の遊具、噴水で遊べる水遊び場や芝生の広場、来館者用の駐車場や駐輪

場があります。建物は、鉄筋コンクリート造り2階建て、約1000㎡で、人気のコミックスがある図書コーナー、Wi-Fiが利用できるパソコンコーナー、ボルダリングウォールやバスケットゴールのあるプレイルーム、インターネットでの予約が可能な音楽スタジオや調理コーナーなどがあります。

ご利用は、年末年始(12/29～1/3)を除く毎日、午前9時から午後8時まで、市内外を問わず0歳から18歳までのすべての子どもたちが無料で自由に遊ぶことができます。なお、保護者が同伴していない小学生以下のお子さんについては、5月から8月は午後5時30分まで、9月、10月と2月から4月は午後5時まで、11月から1月は午後4時までの利用とさせていただきます。

千葉県補連大会 野田市で開催

走り高跳び 戸邊
直人選手が講演

本当の一流とは

県補連大会の記念講演
では、野田第二中学校出
身の戸邊直人選手に「ス
ポーツから学んだこと」
というテーマで話をして
いただいた。

選手として49年ぶりに決
勝に進出した。
なぜ戸邊選手はこま
での結果を残すことがで
きたのだろうか。戸邊直
人選手の話から、そこに
は走り高跳びという競技
と真剣に向き合ってきた
ことが要因として考えら
れる。戸邊選手は、競技
をするだけでなく、勉強に
も励んだ。

走り高跳びが
主流とされて
いる。しかし、
厳密にはどの
ような飛び方
がよいのかと
いうのは特定
されていない
ようだ。その
ため、走り高跳びという
競技の研究を行い、より
高く飛ぶための方法を見
つけた。

この後、戸邊選手は日
本記録を更新し、オリ
ンピックで決勝に出場する
という素晴らしい成績を
収めた。このことから、
私は本当の一流とは競技
力の向上だけでなく、さ
まざまなことを考え、人
間として日々成長して
いくことのできる人だと
思った。

何かに一生涯命取り組
んだ経験は誰しもあるだ
ろう。しかし、戸邊選手
のようにこだわりをも
ち、さまざまな視点から
物事に向き合うことは難
しい。結果を残す人は、
常にこだわりをもち、考

え、追求して努力する。
これこそが、走り高跳び
という競技に真剣に向き
合うということだと感じ
た。

そして、目標に向かっ
て努力することの大切さ
を改めて感じた。本気で

取り組みからこそ得られ
るものがあり、自分を成
長させることができる。
「本気で取り組む」「真
剣に向き合う」をテーマ
に人生を豊かにしていき
たいと、戸邊選手の話に
感謝しながら思った。

不安吹き飛ばす協力に感謝

野田市青少年補導員連協会長 加藤重雄

新型コロナウイルスのため
に中止となっていた県補
連大会が11月27日、3年
振りに野田市ガスホール
で行われました。

遠くは銚子市や木
更津市等、全17市が一堂
に集結しました。野田市
補導員や市の関係職員も
早朝より協力いただきま
した。私たち補導員は大
会にのぞみ、補導員活動
事例発表報告の準備を行
う事でも大変でした。

今年は感染状況を踏ま
えながらの開催となり、
昨年6月に前回大会予定
市だった浦安市からバト
ンを受けました。今年も
どの様な形になるか不安
の中、工夫を行い開催す
る事ができました。

各ブロックの活動報告
を基にまとめてパワーポ
イントで資料を作成、そ
れを編集構成していただ
きました。当日は記憶に
残る素晴らしい発表と
なったのではないでしょ
うか。

また、今回のクライ
マックスは野田市出身
で、東京オリンピック出
場者の戸邊直人さんの講
演と言えるでしょう。

県補連大会もお陰様で
無事に終了する事ができ
ました。この大会でたく
さんの方にご協力、アド
バイスをいただき本当に
助かりました。県補連理
事各位、事務局の市川市
センター職員の方々にも
深く感謝いたします。あ
りがとうございました。



東京オリンピック経験も含めて語る戸邊選手

は背面飛びが
主流とされて
いる。しかし、
厳密にはどの
ような飛び方
がよいのかと
いうのは特定
されていない
ようだ。その
ため、走り高跳びという
競技の研究を行い、より
高く飛ぶための方法を見
つけた。

この後、戸邊選手は日
本記録を更新し、オリ
ンピックで決勝に出場する
という素晴らしい成績を
収めた。このことから、
私は本当の一流とは競技
力の向上だけでなく、さ
まざまなことを考え、人
間として日々成長して
いくことのできる人だと
思った。

何かに一生涯命取り組
んだ経験は誰しもあるだ
ろう。しかし、戸邊選手
のようにこだわりをも
ち、さまざまな視点から
物事に向き合うことは難
しい。結果を残す人は、
常にこだわりをもち、考

え、追求して努力する。
これこそが、走り高跳び
という競技に真剣に向き
合うということだと感じ
た。



野田市から活動事例発表

子どもを取り巻く現状と課題



事例発表する佐藤清美さん

コロナ禍で、2年以上思うような補導員活動ができていない中、事例発表をすることになり、何が出来るか悩んだ結果、「補導員活動の現状と課題」というテーマで書い

てみようと思いました。しかし、自分の所属ブロックの活動しか知らないで、各ブロックの理

事の方々からコロナ禍以前、コロナ禍、そして現在の活動の状況と、そ

こから見えてくる課題について報告していただき、それをまとめることにしました。

パトロールをしていて、十年ほど前なら、駅やコンビニ、ゲームセンターなどで見かけることの多かった子どもたちは、すっかり姿が見えなくなり、声かけをするこ

ともなくなってきました。それに引き換えSNSなどから起こるトラブルが多発してきています。不審者などから子どもたちを守るためのパトロールは必要ですが、SNSのトラブルから子どもたちを守るネットパトロールや、情報の共有もさら



記念講演は東京オリ

リンピックで、49年ぶりに走り高跳び決勝に

進んだ野田第二中出身

の戸邊直人さん(30歳)

が、国際オリンピック

委員会のモットー、『よ

り早く、より高く、よ

り強く』について話さ

れました。

「勘違いされがちで

すが、過去の自分の

記録などとの比較で

あり、他の人との比較

ではない」。戸邊さん

のこの短い言葉の中には

深い意味があると思いま

す。

日常、他との競争が当

たり前になりがちな生活

を振り返り、反省する良

い機会になりました。

戸邊さんは、現役選手

でありながら講演会を通

じ、また来年4月より日

本陸上連盟アスリート委

員会委員長として強化、

普及、育成活動もされる

とのこと。より一層のご

活躍を期待しています。

千葉県青少年補導員大

会が行われた。私は最後

列の席から会に参加して

いた。千葉県内各地域の

多くの方々が参加してお

り、この日のためにバス

を貸し切つて参加されて

いるところもあった。こ

れだけ多くの人々が地

域をより良い場所にする

べく、活動しているとい

うことはとても大きな

参加者の感想から

力だと改めて感じた。ま

た、だからこそ、子ども

たちの安全は日々守られ

ているのだらうというこ

とも再認識させられた。

一人が補導員活動を行う

こと、声をかけることは

小さいことなのかもしれ

ないが、それは決して無

駄なことではなく、確実

に明るい未来を作ってい

る。

私は会場近くの駐車場

にて、車の誘導を担当し

た。開会が近づくと、車

の数も増え、参加者が続々

と集まってきていた。

すると、一人の参加者

の方が「あのバス、かわ

いいですね。どこを走っ

ているの？」と、話しか

けてきてくれた。それは

野田市内を走る「まめバ

ス」であった。自分の住

む地域にはそういったも

のではないと言うことで、

羨ましいとおっしゃって

いた。私は野田市にし

ばらくいるが、そのよ

うに感じたことは一度

もなかった。様々な地

域の方が集まり、それ

ぞれの地域について感

じることに、考えること

は自分では気付かない

ことに気付くいい機会

なのかもしれない。

そういう刺激が、

ゆくゆくは自分の地域

へ還元され、より良い

地域の姿へ近づいてい

くのだろう。

に重要になっていくとの共通認識でした。発表にあたりご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

ネットリテラシー 5つの基本

① ネットは世界中の人が見ている
 ツイッターのようなSNSでは、基本的にその発言が全世界に公開されています。一方、友達登録が前提となるLINEをはじめとするSNSは、一般的に仲間同士の内輪話のように思われていますが、思わぬところからその発言や写真が外に出てしまうこともあるので注意が必要です。

② ネットの情報を鵜呑みにしない
 SNS等へ書き込まれた情報は、その真偽を誰も保証してくれません。例えば、今ネットでやりの情報は、嘘や間違い等も多いため、情報の真偽を判断する能力が必要です。また、ネットの仕組みについて理解をし、どこまで信用できるかを考えることも重要となります。

③ 面と向かって言えないことはネットでも言わない
 ネットでの発言は相手の顔が見えないので、ひどい言葉を抵抗感なく使ってしまうがちです。ひどい言葉を使うと、さらにひどい言葉が返ってきて、その罵り合いが泥沼のようになり、これをすべて消すことができません。

④ ネットに一度出たものを全て回収することは不可能
 ネットに掲載された発言や写真は、それを閲覧した人が自由にコピーできます。そのため、なにか問題があったときに元の発言等を消しても、ネット上には無数にコピーされている可能性があります。これをすべて消すことは不可能です。

⑤ ネットでおこなったことは通信事業者に記録が残っている
 電話会社には契約したユーザーがネット上でおこなった行動が通信記録という形で残されています。犯罪予告などをした人が警察に逮捕されてしまうのはそのためです。つまり「ネットは決して匿名ではない」ということを理解しましょう。

取りをしている相手が男なのか女なのか、歳はいくつなのかなど、私たちにそれを確かめられるかもしれません。そのため、不用意にネット上で知り合った相手と会うことは、何らかのトラブルに巻き込まれるおそれがあります。

④ ネットに一度出たものを全て回収することは不可能
 ネットに掲載された発言や写真は、それを閲覧した人が自由にコピーできます。そのため、なにか問題があったときに元の発言等を消しても、ネット上には無数にコピーされている可能性があります。これをすべて消すことは不可能です。

⑤ ネットでおこなったことは通信事業者に記録が残っている
 電話会社には契約したユーザーがネット上でおこなった行動が通信記録という形で残されています。犯罪予告などをした人が警察に逮捕されてしまうのはそのためです。つまり「ネットは決して匿名ではない」ということを理解しましょう。

「WIT 乗るように、様々な行事や活動が再開されつつあり、補導員の活動も行えることが増えてまいりました。『愛のひとこえ』を少しでも子どもたちに届けられるよう、これからも邁進していきます。ご支援、ご協力のほどをよろしくお願いいたします。」

編集 後記

野田市の青少年補導員の総数は118名。市内各小中高の学校からPTA推せん2名、教員1名、及び各中学校区から青少年相談員が1名という構成です。市内を9ブロックに分けて活動と交流をしていきます。

会話が楽しいSNS
 そこには落とし穴も

便利でも加害者や被害者にもなるネット空間

インターネットの情報は、現代では私たちの生活に欠かせないものになってきています。しかし、正しいものばかりでなく、嘘や間違い等も多いため、情報の真偽を判断する能力が必要です。また、ネットの仕組みについて理解をし、どこまで信用できるかを考えることも重要となります。

トラブルから自分の身や家族、地域の人の安全を守りましょう。何か困ったことがあった時には、自分一人で考え込まず、警察や専門機関に相談しましょう。

【相談先】
 千葉県警察本部（代表電話）043-201-0110
 担当：サイバー犯罪対策課
 野田警察署（代表電話）04-7125-0110